

2021 審判リフレッシュ研修会 チューターリング 参加報告書

指導者：JFAインストラクター
チーフ：山崎さん サポーター：伊藤さん 佐幸さん

参加者：岡山県 小林 久之

日 時：2021年11月27日,28日

場 所：JFAハウス

スケジュール

実践の概要

- テーマは自分で設定。
- グループで意見交換し、プランニングシート見直し。
⇒本番に向け良い準備となった。
他の人に見てもらうことで無駄が明確に。
- セッションは午前中25分。
実践後、グループで振り返りを行い、更に無駄を削ぎ落とし、午後から2回目を20分で違う6名の審判員に対してセッションを行う。
- 参加審判員 東京FA
2級：5名 3級：6名 4級：1名

11/27(土)	11/28(日)
8:00	8:00 参加者9名、サポート3名、秋江さん (計13名) 審判員12名 (控室: 408) 集合 8:45
9:00	9:00 チューターリング実践 410&406 25分×1名×(5回、4回) (9セッション) (1グループ3名+サポート1名) - 10分: 準備・片付け等 (必要に応じて) - 25分: セッション (時間厳守) - 20分: 振り返り・課題の確認 409
10:00	10:00 審判員: 関東学連4名 (級は、確認中) 東京FA 8名 (2級 5名、3級 3名)
11:00	11:55 昼食
12:00	12:50 チューターリング実践 410&406 20分×1名×(4回、5回) (9セッション) (1グループ3名+サポート1名) - 10分: 準備・片付け等 (必要に応じて) - 20分: セッション (時間厳守) - 20分: 振り返り・課題の確認 409
13:00	13:00 集合 410 13:00 【講義】チューターリングに関するリフレッシュ - チューターリングの目的と効果 - 進め方(準備、構成) - よくある勘違い/お困りごと
14:00	14:00 - プランニングシート見直し
15:00	15:00 - リハーサル
16:00	15:40 ふりかえり 16:30 解散
17:00	17:00 - プランニングシート最終調整 - 会場設営
18:00	18:00 18:00 解散

参加者テーマ

グループA (サポート:佐幸) 410

北海道(平石氏) オフサイドの反則(相手競技者を妨害する)

東北(清水氏) 競技者の負傷の程度の判断に求められる考慮事項

関東(田中氏) 試合中ゴールキーパーがボールを手で長く保持しています、主審としてどう対応しますか？

グループB (サポート:山崎) 409

北信越(塩澤氏) ポジショニングと動き (フィールド中盤でのポジショニングと次の争点への動き出しで考慮すること)

東海(登坂氏) 「意図的なトリック」を企てる。とは？

関西(内橋氏) 「決定的な得点の機会の阻止」の判断で注意すべき点

グループC (サポート:伊藤) 410

中国(小林氏) 「判定の精度を高める」ために必要な要素

四国(池添氏) ハンドの反則 偶発的であっても、ボールが自分の手や腕に触れた直後に得点する

九州(尾園氏) 過剰な力を用いてはいなかったが、相手競技者の安全を脅かすプレーをした競技者に対し、主審としてどのように対処するか

Cグループ振り返り

(JFA：伊藤さん、九州：尾園さん、四国：池添さん、中国：小林)

①学んでいたことと違うこと

- 基本的な流れはあっていた。
- 時間の設定によっては、アイスブレイクの必要ない。
(トピックを重点的に行う)
- ローテク基本とっていたが、ハイテクも必要。
ハイブリッドも視野に入れること。

②新たに気付かされたこと

- トピックの絞り込みをピンポイント (シンプル) にすること。
- 機器の不調に対応するための備品も準備しておくこと。

Cグループ振り返り

(JFA：伊藤さん、九州：尾園さん、四国：池添さん、中国：小林)

③ r e t r y で感じたこと

- グループディスカッションすることで、より良いセッションとなった。
- プランニングの修正能力が向上した。
- 人のやったテーマを自分でもやれるような気になった。
- 2回目の方が目的に沿った結果となった。

④全体を通じて

- 審判員のために惜しまずにやること。
- 少し教えて深く教えることの大切さを再認識した。
- 今回の学び、気付きを地域に還元する。

感じたこと

- 与えられたテーマを実践するのではなく、自分でテーマ設定するときのトピックの選定絞り込みの難しさを感じた。
- プランニングしていたことを事前にイメージしていたが、出来ることなら事前にリハーサルを行うべきだと感じた。何回も見直すことの必要性も感じた。
- 短時間で本質を考え答えを導きださせるためには、無駄を極限まで削ぎ落とさないといけないことを感じた。
(ショート、シンプル、クリアでなければならない)
- 審判員に何を持ち帰ってもらえるのか？
審判員が理解し今後の審判活動に活かせるか？
審判員の為にやっていることを大前提で考えることが重要であることに気づかされた。

